

第1回すみわけフォーラムを開催しました

去る4月23日に第1回すみわけフォーラムを開催いたしました。17社、21名の方々にご参加くださいました。開会のご挨拶、ご参加の皆様のご自己紹介の後、当財団理事長の前川正雄が「21世紀におけるすみわけ」についてお話をいただきました。ご参加者からは多くのご質問やご意見と、次回へのご期待をお寄せいただきました。



前川理事長 『すみわけ』について（要約）

●マエカワは創業以来90年の歴史の中で、30年ごとに業態を変え、取り巻く環境や市場に適応しながら生き延びてきました。

冷凍ビジネスを模索し混沌とした初期の30年を経て、中期の30年間で今西錦司の「生物の世界」に出会い、企業を生き物と捉え、他社との競争ではなく地域市場のお客様からの要請に応えて生き続けることを追求し始めました。お客様からの要請に応えていった結果、自ずと冷凍分野から食品、エネルギー、ケミカルへ事業も広がり、独法という小さな組織で製造、販売、技術、サービスに対応することによって、結果としてマルチ化した人材が育ち、共同体化の基礎を確立していきました。

後期の30年は製品を納めるだけでなく、お客様が抱えている課題を社内の製販技、さらにお客様や協力業者と共同体化し、コンポとシステムで解決する時代になりました。異種類の知恵をすり合わせるによりイノベティブな解決策、システムを創出していくことが21世紀における企業のすみわけに欠かせなくなっています。また、すみわけを実現するためには短期的な視点とともに10、20、30年先を見通した上で今ある課題をどのように解決して進んでいくかという中長期的な視点が重要であると考えています。

ご参加者からいただいた感想（一部編集しております）

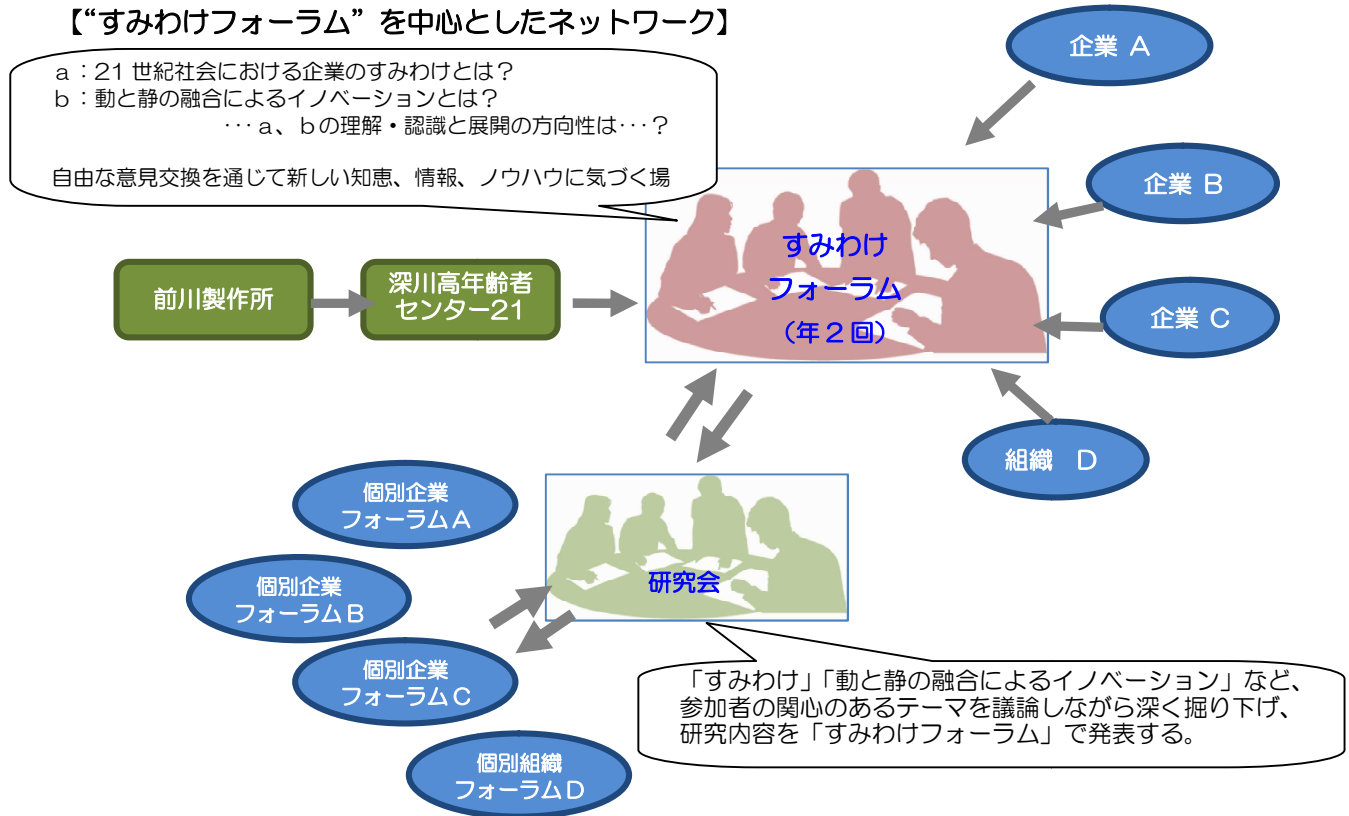
- 自社とマエカワとの共通点があるように感じた。マエカワの考え方を自分たちに適う形で吸収できると生き活きと働く社員が増え、社会に新しい価値を提供できる会社になれるかもしれない。
- 「すみわけ」「すり合わせ」「共同体」の言葉が大変奥深かった。
- 参加者の方のご意見からも非常に刺激を受けて大変有意義だった。
- 話の幅が広く、参加者も多い中で深い議論にまでは至らなかった。
- マエカワの話を探求していくプロセスには根気と視点の転換、環境を観る感性が必要。
- フォーラムの最終目的の絞込みが必要では？

ご参加いただきありがとうございました。皆さまのご意見を今後のフォーラムに活かしてまいります。

【コラム】 “ものづくり、人づくり、文化づくり”

“すみわけフォーラム” を起点にし、研究会でより深い議論をしていくことで新しい気づきや知恵をつくり、さらに各企業とコラボしたフォーラムを展開していきたいと思えます。

【“すみわけフォーラム” を中心としたネットワーク】



【個別企業のすみわけフォーラム】

“社会的価値、顧客価値を創り続けて、社会・顧客にとってなくてはならない存在＝すみわけ” を実現する具体的な方向性をイメージし、色々な知恵を総合し、イノベーションを起こせる状況をつくることをめざしてまいります。

具体的には

- ・「すみわけを実現する企業化計画研修」
- ・企業の実体に即した「動と静の融合によるイノベーションのあり方」をイメージする
- ・「場所的自己発見・自己開発研修」⇒ベテラン世代の企業化（静の働きやすさ・働き甲斐）を実現する
- ・「リーダー研修・マネージャー研修」⇒自社におけるリーダー、マネージャーのあるべき姿とは？
等、各企業の課題に合わせた研修を行ってまいります。

まずは “すみわけフォーラム” “研究会” に
参加しませんか？

